

## 2021 年度 第 2 回市立須坂図書館協議会 会議録 (要旨)

- 1 開催日時 2021 年 10 月 19 日(火)午前 10 時 30 分から正午
- 2 開催場所 市立須坂図書館 第 1 講習室(西館 2 階)
- 3 出席委員 長坂委員長、目黒副委員長、西澤委員、西澤委員、竹前委員、富沢委員
- 4 欠席委員 島田委員
- 5 事務局 田中文化スポーツ課長、文平図書館長、北澤管理係長
- 6 配布資料 2021 年度図書館事業報告(上半期)及び事業計画(下半期)について
- 7 会議状況 各事項について事務局説明後、質疑 (◇は委員の発言、◆は事務局の発言)

### (1) 2021 年度図書館事業報告(上半期)及び事業計画(下半期)について

◇配本室の図書は、どこの学校にも配本してもらえるのか聞きたい。

◆配本室の図書は、図書館で貸し出す本とは別に、学校や公民館などに置いて貸し出してもらうように準備している。須坂小学校の各教室に児童が自由に読める本を置いてあるがボロボロになったままの本が多いとのことなので、今年 7 月に配本室の本を、「ぶっくー一文庫」として各教室において活用してもらっている。学校帰りに寄り道をしてはいけないこともあり、昔に比べて地域公民館の図書室の利用が減少しているので、配本室の本を活用して、須坂小学校のように各教室に本を置くなど各学校と連携できたら良いと考えている。◇子どもたちは図書館に行くと本をよく借りている。学校では「自由に使って良い本」と「みんなが読むから大事に読もう」という本とをバランス良く使い分けていきたい。いずれ返すものと言っても、各教室で自由に手にできるとしたらなかなかそうはいかないところがある。各学校の方針もあるが、そうすると先生の管理下に置くことになると思うので、すぐには同じようにはできないかもしれない。

◆須坂小学校の学級文庫用に配置した本には、通し番号のシールを貼って、返却時の先生の負担が軽減するように工夫した。他の学校にも活用してもらえるよう、機会があれば説明していきたい。

◇タブレット端末をみんなが持てる時代になった。市内の 3 高校でも全生徒が使うようになる。昔は NHK ブックスなどで情報を得ていた。アーカイブとしてその時代のことを知ることは大切だが、NHK の昔のアーカイブを見ようとすると有料になる。本も大切だが、市立須坂図書館では、ルーラル電子図書館(農業データベース)も見ることができるので、そういうアーカイブもあるとさらに良いと思う。

◆NHK のアーカイブについては、すべてではないが、DVD を購入して貸し出している。学校の場合は、団体貸し出しができるので活用してほしい。今後、児童生徒の教材になるようなリストや新刊案内なども作っていきたい。11 月 1 日に館内の Wi-Fi 環境を整備する予定なので、今後は館内で児童生徒がタブレット端末などを使って学習できるようになる。今まで、館内で DVD を視聴する仕組みを整備してこなかったが、これからの時代は、インターネットを介してデータベースを使って映像を見たりすることが主流になっていくと思う。

### (2) 2022 年度予算要求に向けて

◇建物は古くなってきたが、館内の配置などが工夫されていて、だいぶ使いやすく、よくなってきたと思う。ただ、絵本コーナーで絵本を探すのが大変。先日は、絵本が見つからずに職員と 2 人がかりで探して、結局、その絵本が本来あるべき棚とは違う棚で見つけた状態。利用者が手に取って見た後で違う棚に戻したのかもしれないが、わかりにくいので、改善してほしい。

◆希望の本を探しにくいというのは承知していて、絵本の並べ替えを 4 年前から進めているが、なかなか進まない状態。申込貸出制のときは、利用者の皆さんの希望の本を職員が探して用意していたが、そのほうが

良かったという声もあった。

◇自分は、時間があるときに来館して、自分自身で本を見つけない。でも、現状は、絵本の並び方がわかりにくく、置いてある場所もいろいろあって見つけにくい。たとえば、棚や床に矢印を書くとか方法はあると思うが、どのようにリニューアルする予定なのか聞きたい。

◆現在は、出版社で分けて、さらに作家や絵を描いた人で分けているが、今後は、出版社にこだわらずに、絵を描いた人の名前のあいうえお順にしようとしている。すぐにはすべてを並べ替えられないので、委員から提案のあった矢印の表示はやっていきたい。

◆建物については老朽化しているので、来年度以降、外壁や屋根の修繕や照明のLED化、自動ドア、本の運搬用の小型エレベーター、閉架書庫内の電動書架の修繕など、長寿命化に必要な予算を要望していきたい。

◇電子図書館を導入するとしたら、多額の費用がかかるのか聞きたい。

◆電子書籍は、個人で購入すると流通経費がかからないので紙の本よりも安い場合が多いが、図書館で購入するときは、貸し出しをする権利なども付いてくるので、たとえば1冊1,500円のものも6,000円になったりする。そのため、須坂市単独で導入するには、非常に多額の経費がかかる。現在、県立図書館と県内の各市町村の図書館とで協働で電子図書館を導入できないかと話し合いをしており、うまくいけば、来年度以降の試行期間を経て数年後には本格稼働する予定。そうなれば、県と各市町村が費用を出し合うことにはなるが、単独で導入するよりはるかに安い金額で電子図書館が利用できることになる。

◇読み物は電子書籍で良いが、調べものをするときは、インターネットで調べたものをもとに、紙の本で調べるものだと思う。

◇小学生がタブレット端末を使ってインターネットで調べものをしようとする、さまざまな情報が出てきてしまう。電子書籍で調べもの学習をするには、同じテーマの本が何種類ないと、調べもの学習にはならないと思う。そういうとき、高校生なら、生徒だけで市立須坂図書館にも県立図書館にも自由に行って、紙の本も借りられるけど、小中学生は、そうはいかない。学校や通学区内の公民館などで、必要な時に必要な紙の本が借りられるようにする仕組みも必要になる。

◆県と市町村による協働の電子図書館では、まずは、子ども・若者向けのコンテンツから購入していく方針とのこと。それと並行して、県立図書館で専門書の電子書籍も導入したいと話していたので、調べる内容によっては、電子書籍も活用できると思う。市内の小中学生への当館の本の貸し出しについては、タブレット端末から容易に市立須坂図書館のホームページにアクセスできるよう、学校教育課に設定をお願いしてみるが、図書館のホームページの蔵書検索機能を使って借りたい本を見つけた場合、児童が来館できない場合は学校に貸し出す方法もある。